

2008年3月期 第3四半期 決算概要

2008年1月28日
NECエレクトロニクス株式会社
執行役員 CFO 佐藤 博
<http://www.necel.com/ir/ja/>

本日はご多忙のところお集まりいただき、ありがとうございます。

2008年3月期 第3四半期の決算概要についてご説明させていただきます。

I. 2008年3月期 第3四半期 業績概要

- ✓ 着実な固定費削減により、第2四半期に引続き営業黒字を確保

II. 2008年3月期 通期 業績見通し

- ✓ 第4四半期は半導体需要が弱含むリスクあるが、下期での営業黒字を最低限として、引続き業績改善を目指す
- ✓ 現時点では年間業績予想を据置く

こちらが本日のご説明内容のサマリでございます。

まず、第3四半期の業績は、固定費削減を着実に実行したことにより、前四半期に続き営業黒字を維持することができました。

次に、今年度の業績見通しでございますが、第4四半期の半導体需要悪化も懸念されますが、現時点では業績予想を据置きとし、下期での営業黒字を最低ラインとして引続き業績改善を目指して参ります。

I. 2008年3月期 第3四半期 業績概要

II. 2008年3月期 通期 業績見通し

それでは、第3四半期の業績概要からご説明致します。

業績サマリ

(単位: 億円)	08/3期				
	3Q, 12/31			9ヶ月累計	
	実績	前年同期比	前四半期比	実績	前年同期比
売上高	1,708	△71	△66	5,218	+9
半導体売上	1,637	△74	△54	4,978	△11
営業利益	30	+68	△11	49	+156
税前利益	16	+51	+3	35	+126
当期純損益	△9	+48	+8	△40	+92
フリーキャッシュフロー	△10	+66	△172	93	+34
D/Eレシオ	0.51倍	-	-	-	-
株主資本比率	38.8%	-	-	-	-
為替レート	1US\$=114円 1Euro=163円	対US\$ 4円高 対Euro 13円安	対US\$ 6円高 対Euro -	1US\$=118円 1Euro=162円	対US\$ 2円安 対Euro 16円安

注: 当社は米国会計基準を採用しておりますが、「営業利益」は売上高から売上原価、研究開発費、販売費および一般管理費を差し引いたものです。

NEC ELECTRONICS

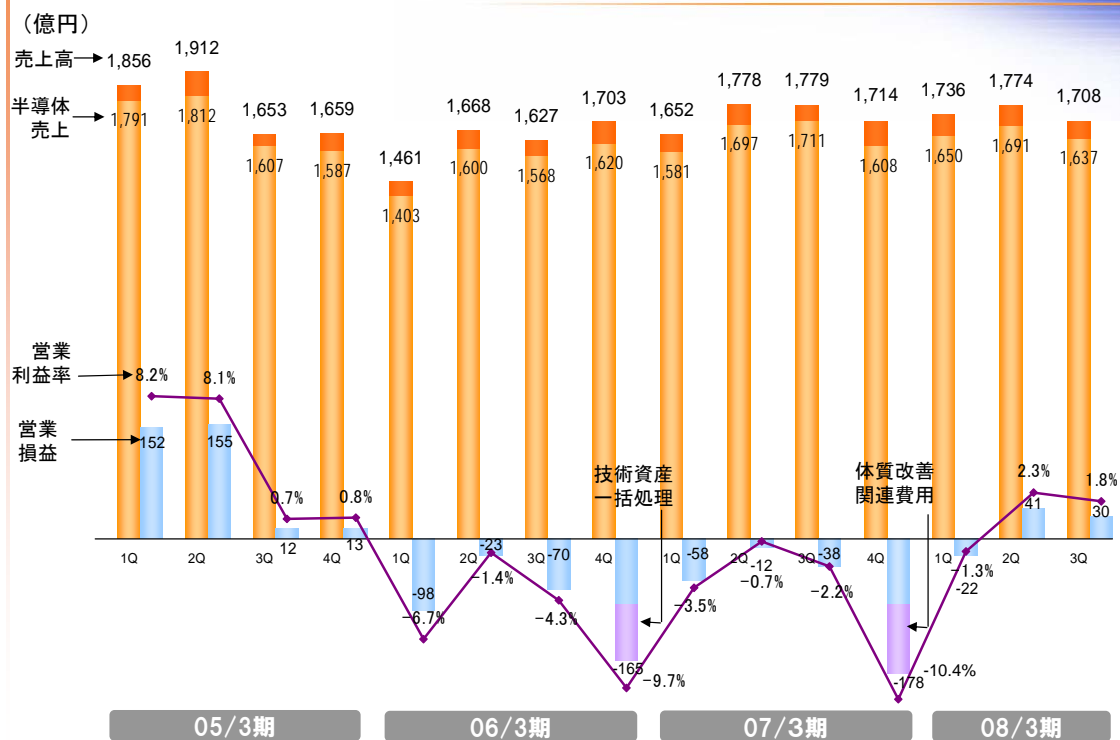
4

まず、第3四半期実績のサマリでございます。

売上高は前年同期との比較で4%減少の1,708億円となりました。当社の主力事業である半導体売上高も前年同期比で4%減少の1,637億円、また、営業損益は前年同期比で68億円改善し30億円の利益となりました。

税前損益は16億円の黒字、当期純損益は海外法人の税金費用等により9億円の損失となりました。

四半期別業績推移

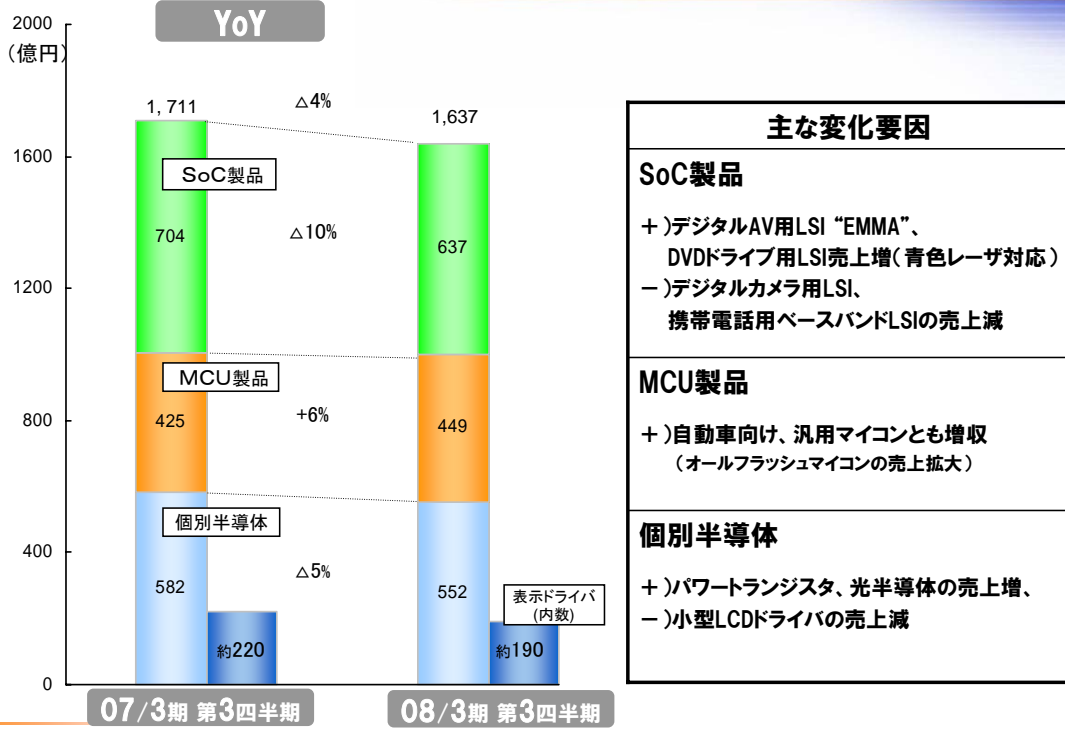


注: 当社は米国会計基準を採用しておりますが、「営業損益」は売上高から売上原価、研究開発費、販売費および一般管理費を差し引いたものです。

次に、四半期ごとの業績推移です。

第3四半期は、固定費削減施策の着実な実行等により第2四半期に引続き営業黒字を維持致しました。

製品別 半導体売上高(前年同期比較)



次に半導体売上高についてご説明いたします。

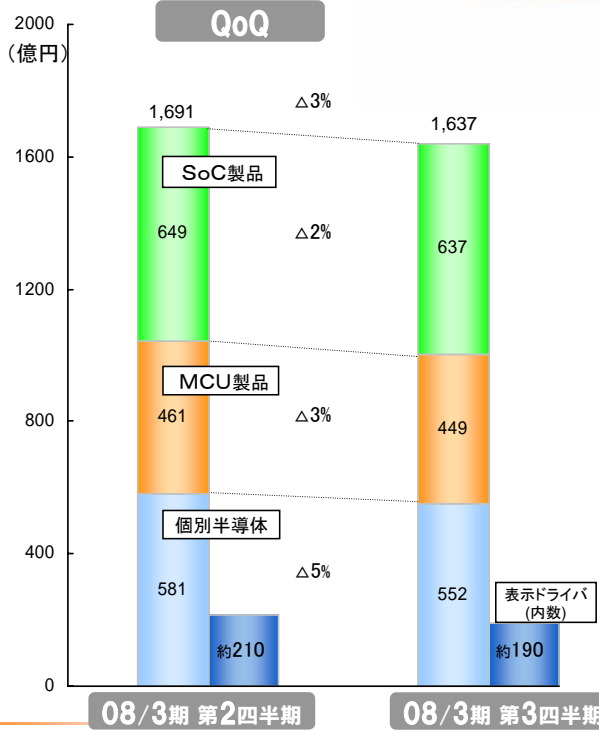
6ページは、第3四半期の製品別の半導体売上高を前年同期と比較したものです。

SOCでは、デジタルAV機器向けLSI ‘EMMA’ や青色DVD用のドライブLSIが売上を伸ばしたものの、プリンタやデジタルカメラ用のLSIがモデル変更等の影響を受け減収となりました。

MCU(マイクロコントローラ)は、自動車向けは特にカーオーディオ関連の売上拡大により、汎用マイコンは特にオールフラッシュマイコンの売上拡大により、6%の成長となりました。

個別半導体では、パワートランジスタや光半導体の着実な売上増があったものの、小型LCDドライバが大きな減収となりました。

製品別 半導体売上高（前期比較）

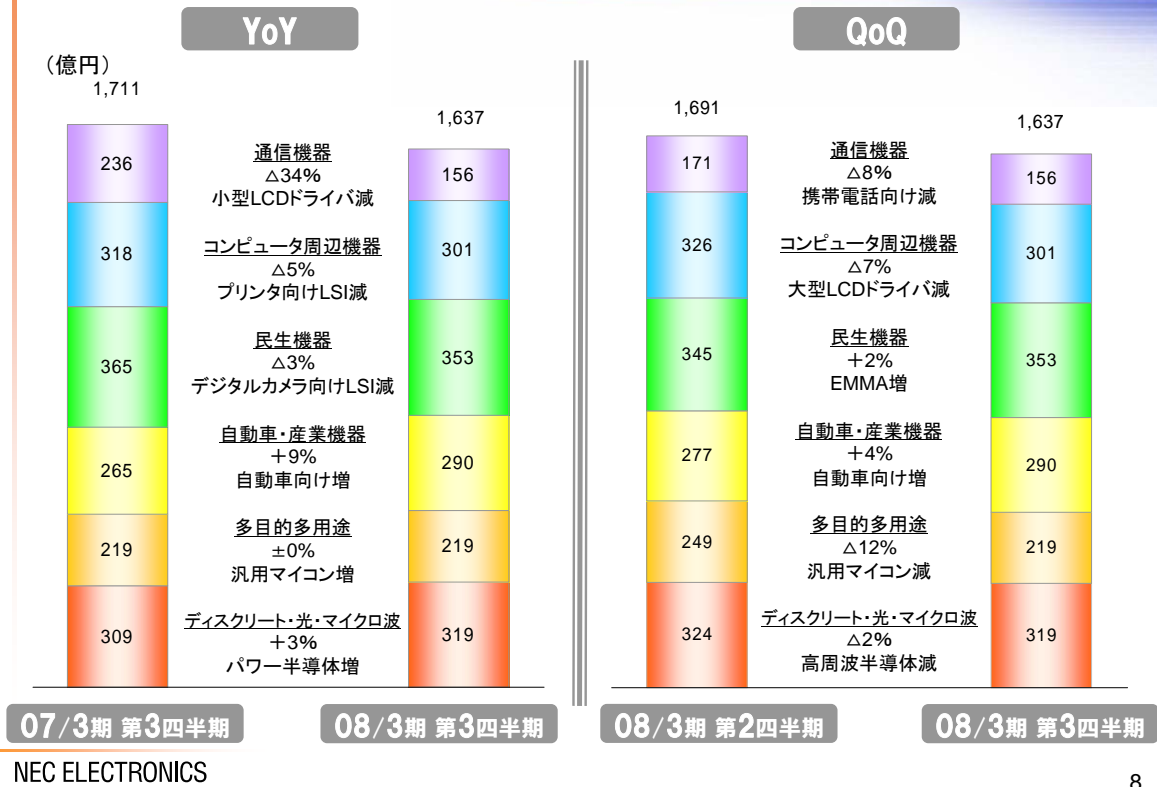


主な変化要因	
SoC製品	+) デジタルAV用LSI “EMMA”、 ゲーム機器向けLSIの売上増 -) 携帯電話向けLSI、 デジタルカメラ向けLSIの売上減
MCU製品	+) 自動車向けマイコンの売上増 -) 一部汎用マイコンで在庫調整あり
個別半導体	+) 小型LCDドライバは緩やかな回復 -) 大型LCDドライバの売上減

また、第2四半期との比較では、EMMAや自動車マイコン等の注力製品の売上増があったものの、各製品群ともに減収となりました。

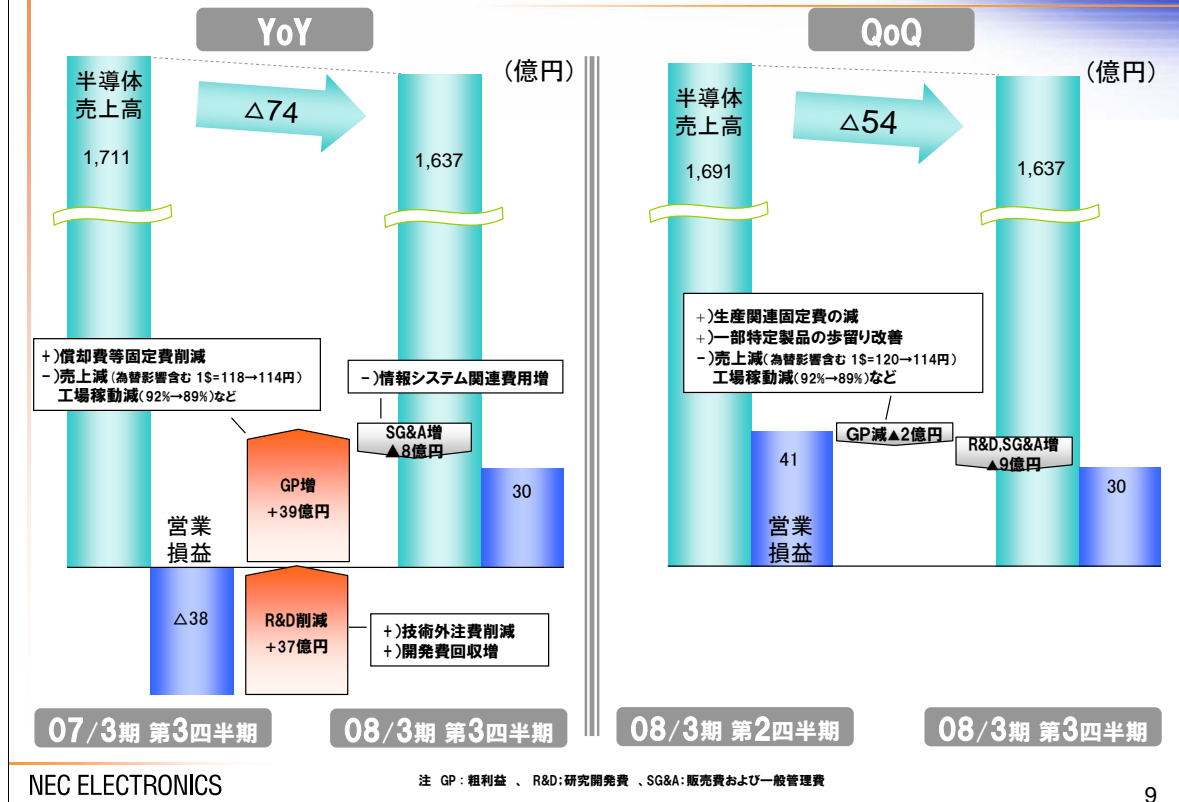
分野別 半導体売上高

NEC



次に、第3四半期の半導体売上を分野別に見てみますと、前年同期比・前期比とも、引き続き通信機器分野が苦戦しておりますが、自動車・産業分野が比較的好調に推移いたしました。

営業損益の主な増減要因



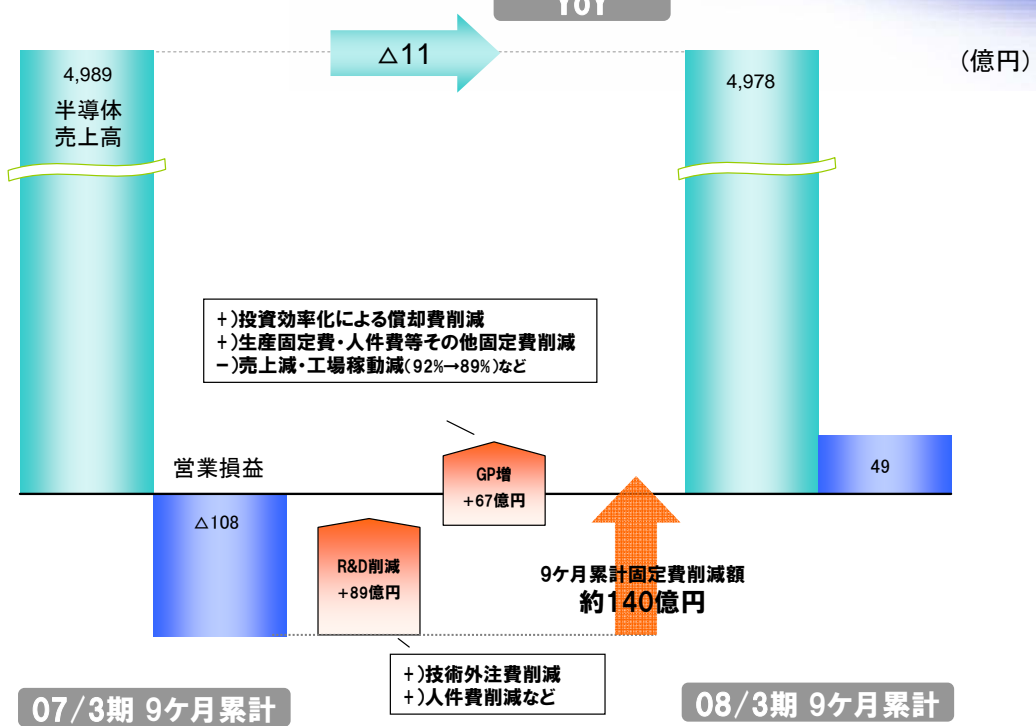
9ページは、第3四半期の営業損益を前年同期および前期と比較したものです。

まず、①前年同期比では、研究開発費 (R&D) や償却費等の費用削減を着実に実行したこと等により、また、②前期との比較では、生産関連固定費の削減や特定製品の歩留り改善があったものの、為替の影響や売上減により、30億円の営業黒字となりました。

営業損益の主な増減要因

(ご参考:9ヶ月累計の前年同期比較)

NEC



NEC ELECTRONICS

注 GP:粗利益、R&D:研究開発費、SG&A:販売費および一般管理費

10

10ページは、9ヶ月累計の営業損益を前年同期と比較したものです。

グラフでご覧頂ける通り、半導体売上高はほぼ横這いでありましたが、営業損益は157億円の改善となっております。固定費削減等による費用構造改革の効果が確実に現われてきていると考えております。

バランスシート

NEC

(単位:億円)		06/12	07/9	07/12
現金および現金同等物		2,126	1,914	1,889
受取手形および売掛金		1,051	1,003	926
たな卸資産		855	802	811
有形固定資産		3,092	2,825	2,738
その他の資産		393	336	313
総資産		7,517	6,879	6,676
支払手形および買掛金		1,507	1,300	1,174
社債および借入金		1,447	1,329	1,320
その他の負債		1,570	1,587	1,543
負債		4,524	4,216	4,037
少数株主持分		46	53	51
株主資本		2,948	2,611	2,588
負債、少数株主持分および資本合計		7,517	6,879	6,676
D/Eレシオ(グロス)		0.49倍	0.51倍	0.51倍
株主資本比率		39%	38%	39%
<補足>				
繰延税金資産		125	112	108
繰延税金負債		123	137	141

NEC ELECTRONICS

11

次にバランスシートです。

第3四半期(07/12)の総資産残高は、6,676億円と、設備投資の抑制と償却の進行で有形固定資産が減少したことなどにより前四半期末(07/9)と比べ203億円の減少となりました。

負債は、買掛金の減少等により、前4四半期末(07/9)から179億円減少し、4,037億円となりました。

株主資本は、2,588億円で、前四半期末(07/9)と比べ22億円の減少となりました。DEレシオは0.51倍、株主資本比率は39%となりました。

(単位：億円)	07/3期		08/3期		
	3Q	9ヶ月累計	2Q	3Q	9ヶ月累計
営業活動による キャッシュ・フロー	195	541	277	136	428
投資活動による キャッシュ・フロー	△271	△482	△115	△147	△335
フリー・ キャッシュ・フロー	△76	58	162	△10	93

キャッシュフローでございますが、

第3四半期の営業活動によるキャッシュ・フローは、連結当期純損失の計上や買掛金の減少などがあったものの、減価償却費等の計上額が191億円であったことなどにより、136億円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の購入による支払が151億円であったことなどにより、147億円の支出となりました。

この結果、フリー・キャッシュ・フローは10億円の支出となりました。

I. 2008年3月期 第3四半期 業績概要

II. 2008年3月期 通期 業績見通し

続きまして、今年度の業績見通しについてご説明致します。

現時点では通期業績予想を据置くが、
下期での営業黒字維持を最低限とし、引き続き業績改善を目指す

(単位:億円)	07/3期		08/3期		
	年間	9ヶ月累計	年間		
	実績	実績	前回予想 (11月13日)	今回予想	差異
売上高	6,923	5,218	6,900	6,900	0
半導体売上	6,597	4,978	6,700	6,700	0
営業損益	△286	49	0	0	0
税前損益	△354	35	△100	△100	0
当期純損益	△415	△40	△150	△150	0

為替レート

1US\$=	117円	118円	下期 115円	4Q 115円
1Euro=	149円	162円	下期 155円	4Q 155円

注1:当社は米国会計基準を採用しておりますが、「営業損益」は売上高から売上原価、研究開発費、販売費および一般管理費を差し引いたものです
注2:予想値は2008年1月28日現在

今年度の業績予想でございますが、現時点では前回予想を据置くことと致しました。

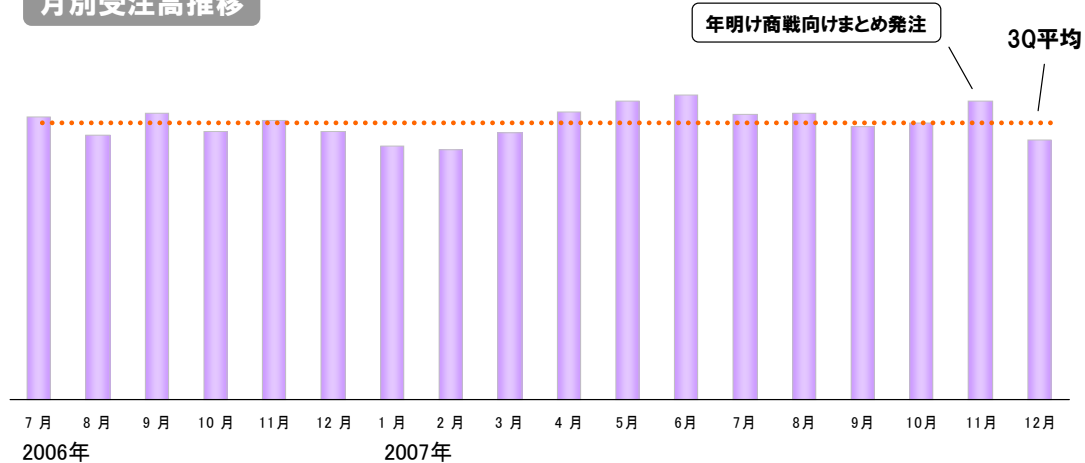
これは、第4四半期の半導体売上や為替変動のリスクを見込んだことによるものでありますが、下期での営業黒字を最低目標とし引き続き業績改善に取り組んで参ります。

半導体受注高の推移

NEC

12月は前月反動の影響もあるが、民生・PC分野の一部で弱含み
3Q平均では、ほぼ前四半期並み

月別受注高推移



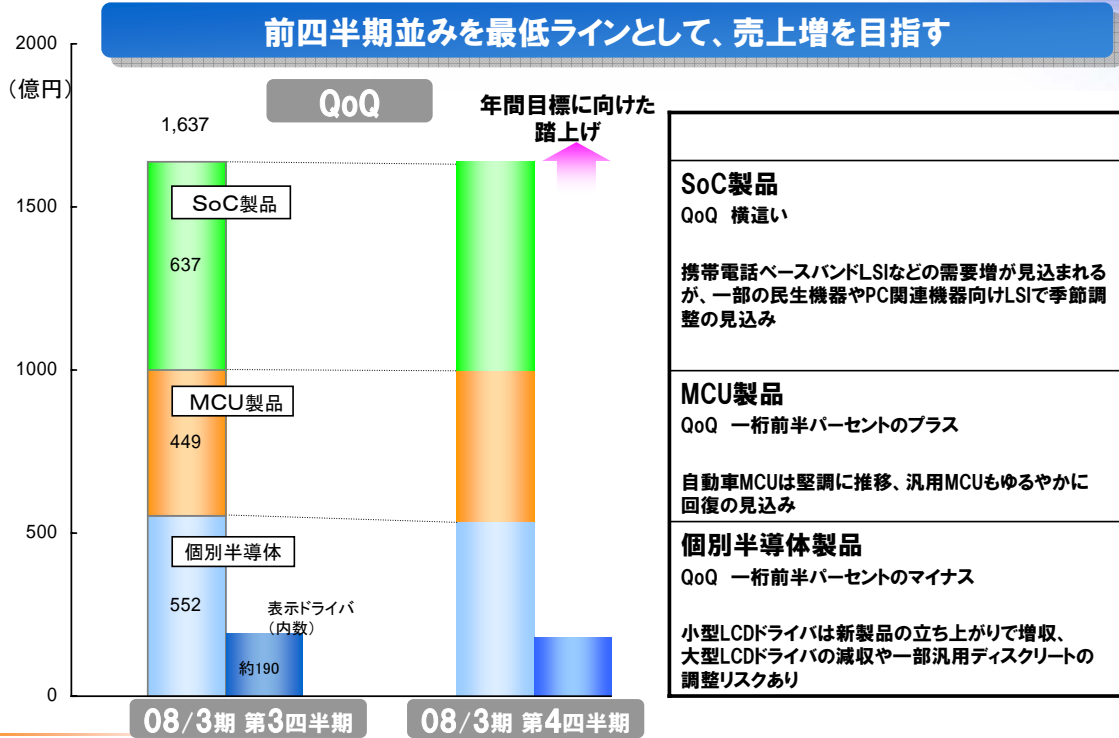
NEC ELECTRONICS

15

15ページは、半導体の受注高の月別推移をお示したものです。

12月の受注は、11月の反動もありましたが、民生分野やPC分野の一部で弱含みました。また、第3四半期の平均受注は前四半期並みとなっております。

第4四半期 半導体売上高見込み



NEC ELECTRONICS

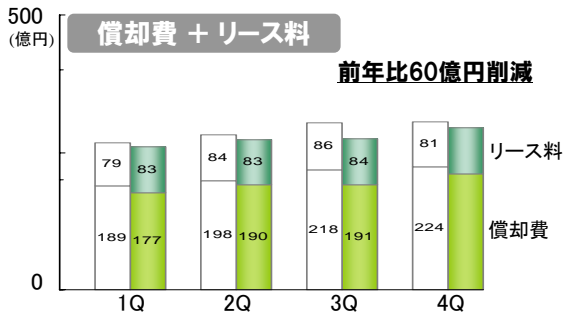
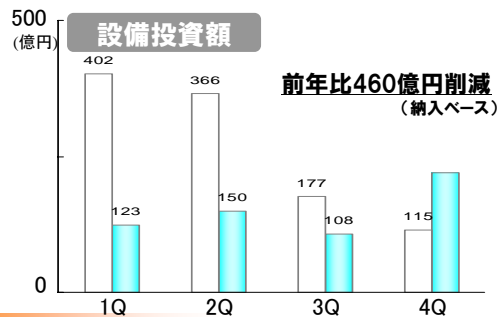
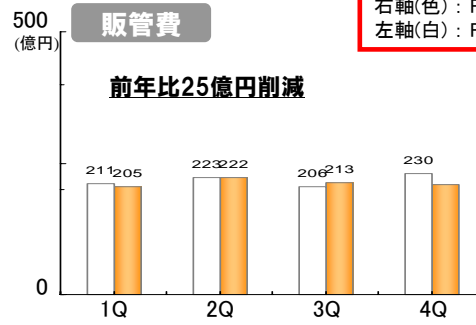
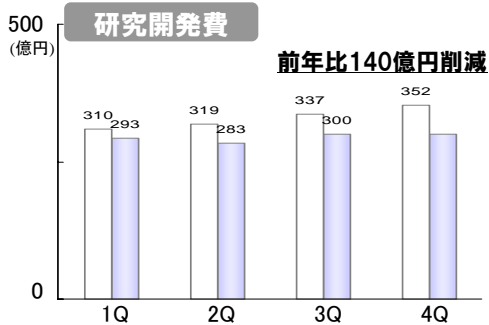
16

このような(前項の)受注状況も踏まえまして、第4四半期の半導体売上を考えると、マイクロコントローラ(MCU)が自動車向けを中心に増収となる見込みであるものの、SOCは横ばい、個別半導体は数パーセントの減収となり、半導体全体では前四半期比横這いがひとつの目安ということになりますが、これを最低ラインとして踏み上げを図ってまいります。

費用削減の進捗状況

- 各種固定費削減を着実に実行
- さらなる効率化を進め、当初目標200億円以上の削減を目指す

グラフの凡例
 右軸(色)：FY08/3期
 左軸(白)：FY07/3期



NEC ELECTRONICS

有形のみ

償却費・リース料は、原価・研究開発費・販売管理費に含まれます
 償却費はキャッシュフロー表ベース

17

次に費用削減の進捗状況についてご説明致します。

今年度は前年度比200億円の固定費削減を目標とし各種施策を実行して参りましたが、ご覧頂ける通り、各四半期で着実に効果が出てきております。

第4四半期もさらに効率化を進め、通期では当初目標の200億円を越す固定費を削減する計画であります。

第4四半期の構造改革関連費用計上を見込み、年間予想を据置く

(単位: 億円)	07/3期	08/3期				
	年間	9ヶ月累計	第4四半期	年間		
	実績	実績	今回予想	前回予想	今回予想	差異
	△68	△14	△86	△100	△100	0
営業外損益	主な雑収益	フォトマスク事業譲渡 > 当社子会社NECファブサーブのフォトマスク事業を大日本印刷株式会社に譲渡(2007年6月)				
	主な雑損失	インドネシア工場閉鎖費用 > 挿入実装型パッケージ後工程工場 > 2007年11月から清算手続き開始 生産再編関連費用 > 固定資産廃棄・売却損等	インドネシア工場閉鎖費用 生産再編関連費用 訴訟関連費用引当 その他構造改革関連費用			

注1: 当社は米国会計基準を採用しておりますが、「営業損益」は売上高から売上原価、研究開発費、販売費および一般管理費を差し引いたものです
 注2: 予想値は2008年1月28日現在

18ページは営業外損益の見通しでございます。

第4四半期には、インドネシア工場閉鎖費用・生産再編関連費用・独禁法にかかわる訴訟関連費用等の引当・その他追加の構造改革関連費用を見込んでおります。

訴訟関連など現時点で評価が難しい要素もございますが、年間の営業外損益全体では前回予想である100億円の損失と見ております。

第3四半期は第2四半期に引続き営業黒字を確保

**第4四半期の市況悪化を考慮し現時点では業績予想を据置くが、
下期での営業黒字を最低限として、引続き業績改善を目指す**

最後に本日のまとめでございます。

第3四半期の業績は、固定費削減を着実に実行したことにより、前四半期に続き営業黒字を維持することができました。

今年度の業績見通しにつきましては、第4四半期の半導体需要悪化も懸念されますが、現時点では業績予想を据置きとし、下期での営業黒字を最低ラインとして引続き業績改善を目指して参ります。

引き続き皆様のご支援をお願い致します。

有難うございました。

NEC

NEC Electronics Corporation

(将来予測に関する注意)

本資料に記載されている当社および連結子会社(以下NECエレクトロニクスと総称します。)の計画、戦略および業績見通しは、将来の予測であって、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績等は、様々な要因により、これら見通し等とは大きく異なる結果となりうることをあらかじめご承知願います。実際の業績等に影響を与える重要な要因としては、(1)NECエレクトロニクスの事業領域を取り巻く日本、北米、アジア、欧州等の経済情勢、(2)市場におけるNECエレクトロニクスの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、(3)激しい競争にさらされた市場においてNECエレクトロニクスが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを供給し続けていくことができる能力、(4)為替レート(特に米ドルと円との為替レート)の変動等がありますが、これら以外にも様々な要因があります。また、世界経済の悪化、世界の金融情勢の悪化、国内外の株式市場の低迷等により、実際の業績等が当初の見通しと異なる結果となる可能性もあります。